

理学部教育プログラム

1. 理学部における教育体系

理学部では、異分野の人ともコミュニケーションができる教養を身につけるための「教養教育系科目」、グローバル化社会に貢献できる語学力と国際性を身につけるための「国際性涵養教育系科目」、および理学全般の広い素養と各専門分野における研究内容の本質を理解できる能力を身につけるための「専門教育系科目」を履修し、厳格な学修成果の評価方法により単位認定します。

教養教育系科目と低学年の国際性涵養教育系科目、および専門教育系科目の中の専門基礎教育科目は全学の教員が協力して授業を担当し、「全学教育推進機構」で開講しています。各学科の専門教育科目は理学部が担当します。

教養教育系科目

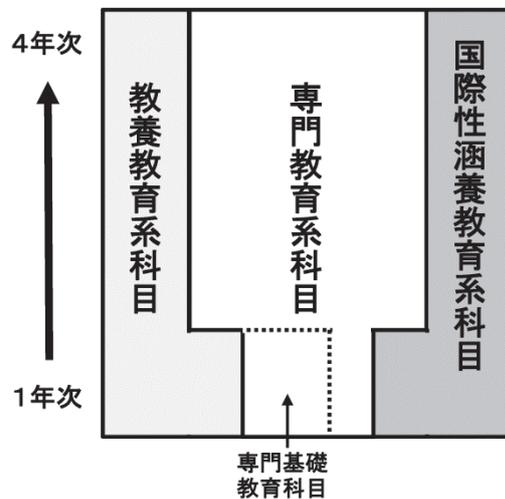
- ・学問への扉
- ・アドヴァンスト・セミナー
- ・基盤教養教育科目
- ・高度教養教育科目
- ・情報教育科目
- ・健康・スポーツ教育科目
- ・コミュニケーションデザイン科目

国際性涵養教育系科目

- ・マルチリンガル教育科目
- ・高度国際性涵養教育科目
- ・国際交流科目
- ・グローバル・イニシアティブ科目

専門教育系科目

- ・専門基礎教育科目
- ・数学科の専門教育科目
- ・物理学科の専門教育科目
- ・化学科の専門教育科目
- ・生物科学科の専門教育科目



2. 専門基礎教育科目

専門基礎教育科目は、数学・物理学・化学・生物学・地学などの理学全般の広い素養を身につけ、広い視野に立った理学の基礎を学ぶために提供されている科目です。各学科の専門教育科目は、この専門基礎教育科目からスムーズに接続されるように構成されています。

理学部専門基礎教育科目

分野	科目名	単位数	数学科	物理学科	化学科	生物科学科				
						生物科学コース	生命理学コース			
							数学	物理	化学	生物
統計学	統計学B-II	2				◎			◎	◎
	統計学C-I	2		○	○		○	○		
	統計学C-II	2		○	○		○	○		
数学	基礎解析学・同演義 I	3	◎	◎			◎	◎		
	基礎解析学・同演義 II	3	◎	◎			◎	◎		
	基礎解析学 I	2			◎	◎			◎	◎
	基礎解析学 II	2			◎	◎			◎	◎
	線形代数学・同演義 I	3	◎	◎			◎	◎		
	線形代数学・同演義 II	3	◎	◎			◎	◎		
	線形代数学 I	2			◎	◎			◎	◎
	線形代数学 II	2			◎	◎			◎	◎
物理学	力学入門	2								
	力学通論	2	○注1			※注3	※注3	※注3		※注3
	力学詳論 I	2		◎				◎		
	力学詳論 II	2	○		○	○	○		○	○
	電磁気学入門	2				※注4	※注4	※注4		※注4
	電磁気学通論	2	○注2							
	電磁気学詳論 I	2		◎				◎		
	電磁気学詳論 II	2	○		○	○	○		○	○
	熱学・統計力学要論	2	○							
	基礎物理学実験	1	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	化学	化学基礎論A I	1	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
化学基礎論A II *化1		1	○	○	◎	◎	○	○	◎	◎
化学基礎論B I		1	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
化学基礎論B II *化2		1	○	◎	◎	◎	○	○	◎	◎
基礎化学実験		1	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
地学		宇宙地球科学 I	1	○	◎	○	○	○	○	○
	宇宙地球科学 II	1	○	◎	○	○	○	○	○	○
	基礎地学実験	1	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
生物学	生物学序論	2	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	生物学詳論	2	○	○	○	○	○	○	○	○
	基礎生物学実験	1	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
必要単位数	必修・選択必修		12	23	22	24	24	24	24	24
	選択		13	2	3	0	0	0	0	0
	合計		25	25	25	24	24	24	24	24

◎・・・「必修科目」(必ず履修するように指定された科目)

※・・・「選択必修科目」(付された条件に従い選択して修得しなければならない科目)

○・・・「選択科目」(選択して履修することができ、修得すれば「専門基礎教育科目」の単位として算入される科目)

履修要件

*化1 履修にあたり「化学基礎論A I」を履修することが必要

*化2 履修にあたり「化学基礎論B I」を履修することが必要

※印(および複数科目に一つの○印)を付した科目の履修方法

注1～注4の「物理選択者」とは、大阪大学入学選抜試験(一般入試(個別学力検査等及び大学入試センター試験)、特別入試、AO・推薦入試)において物理を選択した者、「物理非選択者」とは、物理を選択しなかった者を指す。

数学科の履修について

注1 ・物理選択者は「力学通論」または「力学詳論 I」のいずれか1科目を選択。物理非選択者は「力学入門」を選択。

注2 ・物理選択者は「電磁気学通論」または「電磁気学詳論 I」のいずれか1科目を選択。物理非選択者は「電磁気学入門」を選択。

化学科・生物科学科生物科学コース、生命理学コースの履修について

注3 ・物理選択者は「力学通論」または「力学詳論 I」のいずれか1科目を選択必修。物理非選択者は「力学入門」を必修。

注4 ・物理選択者は「電磁気学通論」または「電磁気学詳論 I」のいずれか1科目を選択必修。物理非選択者は「電磁気学入門」を必修。

3. 卒業に必要な単位数一覧

学科・専攻等	教養教育系科目							国際性涵養教育系科目							専門教育系科目				自由選択 D	総卒業要件単位数 (D+C+B+A)			
	学問への扉	アドヴァンスト・セミナー	基盤教養教育科目				計 A	マルチリンガル教育科目					計 B	専門教育科目			計 C						
			人文科学系	社会科学系	自然科学系	総合型		情報教育科目	健康・スポーツ教育科目	高度教養教育科目	第1外国語科目			第2外国語科目	選択外国語科目	グローバル理解科目		専門基礎教育科目			必修科目	選択必修科目	選択科目
											総合英語	実践英語											
数学科	2	—	6 (ただし「自然科学系」科目は、卒業要件外とする)				14	6	2	3	—	2	13	2	15	25	38	—	24	87	8	124	
物理学科	2	—	6 (ただし「自然科学系」科目は、卒業要件外とする)				14	6	2	3	—	2	13	1	14	25	44	8	12	89	8	125	
化学科	2	—	6 (ただし「自然科学系」科目は、卒業要件外とする)				14	6	2	3	—	2	13	2	15	25	32	14	26	97	2	128	
生物科学科 (生物科学コース)	2	—	6 (ただし「自然科学系」科目は、卒業要件外とする)				14	6	2	3	—	2	13	2	15	24	23	40	4	91	5	125	
生物科学科 (生命理学コース)	2	—	6 (ただし「自然科学系」科目は、卒業要件外とする)				14	6	2	3	—	2	13	2	15	24	12	38	17	91	5	125	

教養教育系科目

「学問への扉」

1科目2単位以上を修得する必要があります。

「アドヴァンスト・セミナー」

必修科目ではありませんが、修得した単位は、自由選択の単位になります。

「基盤教養教育科目」

人文科学系、社会科学系、総合型の科目の中から、6単位以上を修得する必要があります。

「情報教育科目」

「情報科学基礎」の2単位が必修です。

「健康・スポーツ教育科目」

「スポーツ実習A」(1単位)を含む2単位以上を修得する必要があります。なお、「スポーツ実習A」の他の1単位は、「スポーツ科学」(1単位)、「健康科学実習A」(1単位)および「健康科学」(1単位)から選択してください。

「高度教養教育科目」

高度教養教育科目として開講されている専門教育科目を2単位以上修得してください。全学教育推進機構、他学部、他学科(共同開講科目を含む)で開講されている科目を取っても構いませんが、所属学科により高度教養教育科目の必修科目がある場合もあります。

国際性涵養教育系科目

「マルチリンガル教育科目」

- ・第1外国語：理学部に配当される科目の中から、総合英語6単位以上、実践英語2単位以上、計8単位以上を修得しなければなりません。
- ・第2外国語：「ドイツ語」「フランス語」「ロシア語」「中国語」の理学部に配当される科目の中

から、1つの外国語を選択し、選択した外国語の授業科目から3単位以上修得しなければなりません。

- ・グローバル理解：理学部に担当される科目の中から2単位以上修得しなければなりません。
- ・外国人留学生は、第2外国語に「日本語」を選択することができます。
- ・英語を母国語とする外国人留学生は、第1外国語の「総合英語」、「実践英語」の理学部に担当される科目の中から3単位以上、第2外国語の「日本語」の理学部に担当される科目の中から3単位以上、グローバル理解の「多文化コミュニケーション1」の理学部に担当される科目の中から2単位以上、計8単位以上を第1外国語として修得することができます。また、第2外国語には、「ドイツ語」、「フランス語」、「ロシア語」、「中国語」のうち、理学部に担当される科目の中から1つの外国語を選択し、履修することができます。

「高度国際性涵養教育科目」

2年次の秋学期以降に担当されている高度国際性涵養教育科目の中から、各学科が定めている単位数（1単位もしくは2単位以上）を修得しなければなりません。

専門教育系科目

各学科が定めている「専門基礎教育科目」および各学科が開講している「専門教育科目」の必要な単位数を修得する必要があります。

総卒業要件単位数について

教養教育系科目の必要単位数A、国際性涵養教育系科目の必要単位数B、専門教育系科目の必要単位数Cを修得した上で、更に自由選択の単位数Dは、教養教育系科目、専門教育系科目、国際性涵養教育系科目の中から多めに単位を修得し、総卒業要件単位数（A + B + C + D）を満たす必要があります。

4. 注意事項

1) クラス編成

低学年担当の「教養教育系科目」と「国際性涵養教育系科目」は、理学部に担当されている科目の中から原則として履修選択希望登録に基づき、履修クラスが決まります。「専門教育系科目」の受講に関しては、基本的には学科単位のクラス編成となります。

2) 専門教育科目の選択科目の単位

専門教育科目の選択科目としては、各学科専門教育科目編成表に記載されている専門教育科目の中から必要な単位数以上を修得します。

3) 転科

入学後の大学の勉学を通して、専門分野を再考して、理学部内での学科変更（転科）を希望する学生は、秋～冬学期終了時に行われる転科試験（筆記・口頭試問と面接）を受ける必要があります。試験は転科希望先の学科毎に行われます。筆記試験は、主に転科希望先の専門基礎教育科

目の内容から出題されますが、学科・コースにより卒業に必要な専門基礎教育科目が異なる場合があります。4年で卒業できない可能性もあります。可否は試験の成績と専門基礎教育科目の1年次の成績とを総合して決めます。詳細な試験実施要項は10月頃に掲示されます。

4) 転部

転部を希望する学生は、理学研究科学務係に相談してください。

5) 履修手続について

履修にあたっては、定められた手続にしたがって履修科目の申請及び登録を行わなければなりません。

- ① 履修しようとする授業科目の履修手続きは、春～夏学期と秋～冬学期の各学期始めにあります。それぞれ指定された登録期間内にパソコン等の Web ブラウザを使用し、学務情報システム KOAN で履修登録を行ってください。登録期間やその他詳細については掲示によりお知らせしますので、その指示や内容を確認し、必ず登録期限までに履修手続きを行ってください。
- ② 授業科目の中には年度途中に開講する等により、登録期間が各学期の始めではない場合もあります。また、学務情報システム KOAN で履修登録を行わない授業科目もあります。これらの科目の履修手続きについても掲示等でお知らせしますので、その指示や内容を確認し、所定の履修手続きを行ってください。
- ③ 学期の途中で、履修登録した授業科目を取り消したい場合は、学期ごとに定められた履修取消期間に、当該科目の履修登録を取り消すことができます。履修取消期間については、掲示等でお知らせします。定められた期間外に、履修登録した授業科目を取り消すことはできません。
- ④ 専門基礎教育科目を含む全学共通教育科目の履修手続きは、『全学共通教育科目履修の手引』記載の「履修手続」の項及び掲示等にしたがってください。
- ⑤ 他学科及び他学部、国際交流科目、コミュニケーションデザイン科目及びグローバルユニシアティブ科目の履修手続きについても、掲示等で特に指示がない限り、学務情報システム KOAN で履修登録を行ってください。ただし、当該授業科目を開講する学部(部局)等の所定の手続きや制限により、履修を認められない場合もあります。開講する学部(部局)の指示を仰ぐか、または授業の際に当該授業科目担当教員に確認してから履修手続きを行ってください。
- ⑥ 自分の学年より高学年に配当されている授業科目の履修は原則認められません。ただし、各学科の履修相談を担当する教員との相談により、教育上有益な履修であり、かつ当該授業科目の履修に相応しい学力を備えると判断される場合は、履修を認める場合があります。その場合、当該科目の申請登録期限までに、所定の申請用紙を理学研究科学務係に提出してください。
- ⑦ 大学間相互単位互換協定に基づく科目の履修については、事前に理学研究科学務係に相談してください。

- ⑧ 履修に必要な学修がなされていないと判断される場合、特定の科目については履修制限等の指導を行うことがあります。これは、当該授業科目を履修するために必要とされる学修(または単位修得)がされていることを前提とする授業科目があるからです。また、教育上有益な科目の履修を奨励することから、他学科や他学部等の科目に対してもその履修制限を課すこともあります。本誌便覧の「各学科履修指針」に記載する内容をよく確認し、計画的に授業科目の履修を行うようにしてください。

6) 不正行為について

専門教育科目の筆記試験等において不正行為を行ったものは、その学期の専門教育科目の成績評価が全て無効となります。

5. 知的能動性をはぐくむ理学教育

理学部では、本誌便覧で説明されているように質の高い教育を保証する教育カリキュラムが整備されています。しかしながら、大学のような高等教育の場では、受動的な姿勢ではなく自らが積極的に学ぼうとする姿勢が大切となります。

そこで、学生が主体的に学ぼうとする意欲を促すとともに、高いモチベーションを持って学習することができるよう、理学部では、平成20年度～平成22年度まで、教育GP「知的能動性をはぐくむ理学教育プログラム」として文部科学省から支援を受け、以下の3種の取り組みを実施しました。

- (A) 「専門基礎教育科目」と「専門教育科目」をつなぐ科目や実験・実習・演習など、能動性を高める科目「専門へのステップアップ教育」の実施
- (B) 学生を主体とした知的能動性を高める取り組み「能動的学生啓発プログラム」の実施
- (C) 社会や先端研究を意識させ、能動的に将来展望を描く「キャリアパス・デザイン教育」の導入

理学部では、このような趣旨に基づいた科目に現在も継続して取り組んでいますので、積極的に参加してください。

6. 理数オーナープログラムについて

理学部では意欲的な学生を応援するための理数オーナープログラムを実施しています。理数オーナープログラムは、強い意欲を持つ学生のためのより進んだ内容を学ぶオーナーカリキュラムと討論形式の徹底した少人数対話型授業(オーナーセミナー)からなっています。オーナーセミナーでは、課題設定能力と創造力を身につけるために、自ら設定した課題について自主研究を行います。理数オーナープログラム修了者には卒業時に修了証を授与します。社会的活動や研究活動の発信性などを考慮し、特に優秀な修了者は「優秀修了」として表彰します。

理数オーナープログラムのホームページ

<http://www.sci.osaka-u.ac.jp/ja/honr/>

7. 学部生による大学院科目の履修制度

理学研究科では、学部生により高度な学びの機会を与え、博士前期課程入学後の早い段階で質の高い研究指導を行うため、意欲的で優秀な学部生を大学院理学研究科科目等履修生として受け入れ、大学院科目（理学研究科開講科目）の履修を可能にする制度があります。

この制度の対象は学部3年次および4年次生ですが、履修を許可されるためには一定の条件をみたす必要があります（専門教育科目修得科目のGPAが3.00以上等）。また、履修できる科目や単位数にも制限があります。

詳細は、各学科の履修相談を担当する教員または理学研究科学務係にお問い合わせください。

8. グレード・ポイント・アベレージ（GPA）制度について

本学では平成26年度学部入学者からGPA制度を導入しました。GPA制度の実施は、学修の状況及び成果を示す指標としてのGPAを算出することにより、学生の学習意欲の向上及び適切な修学指導に資するとともに、教育の国際化を促進することを目的とします。

1) GPについて

成績の評価及び各評価に与えられるGPは、以下のとおり定めています。

成績の評価	S (90点以上)	A (80点以上 90点未満)	B (70点以上 80点未満)	C (60点以上 70点未満)	F (60点未満)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

2) GPAについて

当該学期におけるGPA（以下「学期GPA」という。）及び全在学期間におけるGPA（以下「通算GPA」という。）があります。学期GPA及び通算GPAを算出する計算式は以下のとおりです。

（GPAの算出は、小数点以下第3位を切り捨てるものとします。）

【学期GPAを算出する計算式】

$$\text{学期GPA} = \frac{(\text{当該学期に評価を受けた各授業科目で得たGP} \times \text{当該授業科目の単位数}) \text{の合計}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計}}$$

【通算GPAを算出する計算式】

$$\text{通算GPA} = \frac{((\text{各学期に評価を受けた各授業科目で得たGP} \times \text{当該授業科目の単位数}) \text{の合計}) \text{の総和}}{(\text{各学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計}) \text{の総和}}$$

3) GPA算出の対象科目について

教養教育系科目、専門教育系科目及び国際性涵養教育系科目のうち、大阪大学学部学則（以

下「学部学則」という。)第10条の7第2項に基づく試験の成績の評価(以下「成績の評価」という。)を行う授業科目であって、理学部において卒業要件に算入できる授業科目とします。ただし、次の各号に該当する授業科目については、GPAの計算から除くものとします。

- ① 本学在学中に他の大学、専門職大学若しくは短期大学(専門職短期大学を含む。以下同じ)、において履修した授業科目又は外国の大学(専門職大学に相当する外国の大学を含む。以下同じ。)若しくは短期大学において履修した授業科目
- ② 入学前に本学、専門職大学若しくは短期大学において履修した授業科目又は外国の大学若しくは短期大学において履修した授業科目(科目等履修生として履修した授業科目を含む。)
- ③ 本学在学中に大学以外の教育施設等における学修(短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修)を本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えられた授業科目
- ④ 学部学則第14条から第15条までの規定による編入学等に伴い、本学の授業科目を学修したものと同等以上の学力があると認定された授業科目
- ⑤ 前各号に掲げるもののほか、学部学科が別に定める授業科目
(現在、該当する科目はありません。)

4) 「履修取消し」について

履修登録を取り消した授業科目は、学期GPA及び通算GPAの算出から除外します。なお、履修を取り消した授業科目は、学務情報システムKOANでは「W」(Withdrawal)で表示されます。

※本制度の詳細は、「マイハンドアイ」に掲載の「大阪大学におけるGPA制度の導入について Q&A」で確認してください。

9. Q & A

【科目の分類について】

Q 1 専門基礎教育科目とは何ですか？

A 1 専門基礎教育科目は専門教育系科目の一部で、初年次あるいは2年次に各学部・学科で行う専門教育科目の基礎的な部分を学ぶ科目です。理学部に入学した皆さんが専門教育科目を学ぶために必要な基礎を身につけるための大変大切な科目です。粘り強く学んでください。

Q 2 教員免許を取得したいのですが…。

A 2 理学部では、卒業までに所定の科目を修得すると、中学校・高等学校の「数学」「理科」の免許を取得することができます。詳しくは、大阪大学教育課程委員会が作成する『大阪大学【教職課程ブックレット】1教職課程への招待 教育職員免許状修得ガイド』を参照してください。このブックレットは、4月上旬に開かれる教職課程ガイダンスで配布するほか、理学研

究科学務係でも入手可能です。

Q 3 私は数学科ですが、理科の教員免許を取ることができますか？（またはその逆）

A 3 不可能ではありませんが、他の学科の専門教育科目を教員免許のためだけに履修する必要があり、4年間で数学科の卒業要件単位と理科の教員免許を取得するための単位を修得するのは、難しいかもしれません。詳しくは理学研究科学務係へお問い合わせください。

〔履修について〕

Q 1 他学科、他学部の授業科目を履修しようと思いますが、特別な手続きや制限はありますか？

A 1 他学科の授業科目を履修する場合、特別な履修手続きは不要です。KOAN等により所定の履修手続きを行ってください。ただし、当該学科の3年生の実験や4年生の卒業研究にあたる科目などは、履修のための条件がありますので履修することはできません。他学部の授業科目を履修する場合、KOAN等による所定の履修手続きをすることについては他学科の授業科目と同様ですが履修登録期間が専門教育科目と異なり、先着順となります。開講する学部（部局）等の定めるところにより、履修を制限される授業科目があるかもしれません。開講する学部等の指示を仰ぐか、または授業の際に当該授業科目担当教員に確認してから履修手続きを行ってください。「高度教養教育科目」の単位として認定されますが、指定されていない科目は要件外となります。

Q 2 P. 8, 9の「5) 履修手続について」の中に、「履修に必要な学修がなされていないと判断される場合、特定の科目については履修制限等の指導を行うことがある」と書かれています。また、「教育上有益な科目の履修を奨励することから、他学科や他学部等の科目はこのような指導を行うこともあります」と書かれています。具体的には、どのような科目を指していますか？

A 2 本誌便覧の「各学科履修指針」に記載する「卒業するために必要な単位と条件」をよく確認してください。学科ごとに、3年生の実験や4年生の卒業研究にあたる科目などを履修するための条件が記載されています。自由選択の履修にあたっては、各学科の履修指針等を参照してください。なお、シラバスに条件が記載されている授業科目もありますので注意してください。不明な点がある場合は、各学科の履修相談を担当する教員、身近な教員、あるいは理学研究科学務係に確認・相談を行うようにしてください。

〔転科について〕

Q 1 私は現在所属している学科から他の学科に変わりたいのですが…。

A 1 まず、身近な教員（講義やゼミの担当教員）、担任教員、または学科長に相談するとよいでしょう。転科を希望する場合は、秋～冬学期末に行われる転科試験を受けてください。ただし、学科・コースによりカリキュラムが異なるため、容易ではありません。転科試験に関しては、P. 7, 8を参照してください。

〔その他の情報〕

Q 1 いろいろな情報はどの掲示板に掲載されるのでしょうか？

A 1 全学共通教育関係の情報（講義や休講等の情報）は、主に全学教育推進機構の掲示板に掲載され、理学部関係の情報（奨学金関係や担任による呼び出し等）は、理学部の掲示板に掲載されます。しかし、逆の場合もありますので、両方の掲示板を常に見ておいてください。また、学科独自の掲示板もありますので、所属の学科の掲示板も常に見ておくよう注意ください。なお、学務情報システム KOAN の掲示板のみによる掲示も多くありますので、注意してください。

Q 2 住所を変更したのですが…。

A 2 学務情報システム KOAN で新しい住所を登録してください。また、大学から直接連絡する場合もありますので、電話番号や e-mail アドレスも常に最新の情報を登録するようにしてください。

Q 3 履修登録はどこでするのでしょうか？

A 3 Web ブラウザを使用し、学務情報システム KOAN にて履修登録します。学内の理学部情報処理室、及びサイバーメディアセンター豊中教育研究棟、吹田教育実習棟に設置してあるパソコンを利用してください。また、Web ブラウザの利用できる学外のパソコン等からも使用可能です。入学後、履修登録までに配布する大阪大学個人 ID とパスワードをなくさないよう大切に保管してください。

Q 4 教育実習へ行っている間は、公欠になりますか？

A 4 理学部教授会で、各授業担当教員に対して「教育実習の期間内は授業に配慮していただく」よう、アナウンスをしていますが、扱いとしては公欠になりません。

Q 5 休学したいのですが…。

A 5 3ヶ月以上連続して修学できない場合は、学部長の承認を得て、その学年の終わりまで休学する事ができます。休学の願い出は、休学を開始する1ヶ月前までに、理学研究科学務係へ提出してください。詳しくは P. 76 を参照してください。

Q 6 授業料免除・奨学金を受けたいのですが…。

A 6 豊中学生センター、または吹田学生センターで申請を受け付けます。申請の時期や方法は、学生掲示板に掲載されますので、常に学生掲示板をチェックしてください。詳しくは、P. 88～91 を参照してください。

Q 7 悩みを相談したいのですが…。

A 7 修学面、生活面、健康面など、日常における様々な悩みについて、理学研究科の教員に相談することができます。各学科の相談員は、P. 83 を参照してください。相談は電話でも良いで

すが、Eメール (sodan@sci.osaka-u.ac.jp) でも受け付けていますので、悩み事があればとにかく一度メールしてみてください。

そのほか、授業期間中（金曜日を除く）は理学部本館E棟E217 室にて「なんでも相談室」を開室しています。

その名のとおり、気軽に「なんでも」相談してください。なんでも相談室は、Eメールでも悩み相談を受け付けています。(nandemo@sci.osaka-u.ac.jp)

また、「学生相談室」では、専門のカウンセラーに相談することができます。詳しくは、P.84を参照してください。

Q 8 大学で怪我をしてしまったのですが…。

A 8 学生実験や授業の最中の事故や怪我の場合は、直ちに実験・授業担当の教員に連絡し、指示を仰いでください。

ちょっとした怪我は診療時間内ならキャンパスライフ健康支援センター保健管理部門で処置してもらえます。しかしキャンパスライフ健康支援センター保健管理部門には確定的な診断や治療に必要なX線写真やその他の検査（MRI など）の装置がなく、必要な場合には近くの病院等が紹介されます。

入学手続きの際に学生教育研究災害傷害保険の加入手続き書が配布されていますが、この保険に加入することにより、教育研究活動中に怪我などをした場合、保険金が支払われます。

理学部では、1年次から実験がありますので、必ず全員加入するようにしてください。

保健センター、学生教育研究災害傷害保険に関する詳しい内容は、P.81～83を参照してください。

Q 9 台風が来ている場合、授業は休講になりますか？

A 9 大阪府「豊中市・吹田市・茨木市・箕面市のいずれか又はこれらの市を含む地域」に「暴風警報」又は「特別警報」が発令された場合、授業は休講になります。詳しくは、P.92, 93を参照してください。

Q10 証明書がほしいのですが…。

A10 学割証、在学証明書、成績証明書、卒業見込証明書、健康診断証明書（定期健康診断受検者のみ）については、全学に設置された証明書自動発行機で出力することができます。（ただし、学割証は1人1日3枚、年間10枚までです。）就職活動のために、成績証明書の厳封が必要な場合は、出力後、理学研究科学務係の窓口までお持ちください。その場で厳封します。証明書自動発行機は、下記の場所に設置されています。

【豊中キャンパス】

○全学教育管理・講義A棟2階ロビー（1台）（8:30～17:00）

○豊中学生センター2階ホール（2台）（8:30～17:00）

【吹田キャンパス】

○吹田学生センター カウンター前（1台）（8:30～17:00）

○工学部管理棟1階 (U1M) (2台) (9:00~17:00)

○医学部医学科共通棟1階 (1台) (8:30~17:00)

【箕面キャンパス】

○外国語学部 研究・講義棟A棟南側玄関 (2台) (8:30~17:00)

Q11 私って卒業できますか？ (4年次学生に多い質問)

A11 学科別履修指針にある「卒業所要単位数」表を参照の上、各自で計算してみましょう。不明な点があれば、理学研究科学務係へお問い合わせください。

Q12 レポート課題などで、先輩や同級生のレポートを参考にすることは、どの程度許されるのでしょうか。

A12 レポートは、試験と同じく、個人個人が習得した学力をはかる資料ですから、他人のレポートやネットの記事を写して、自分のレポートとすることはできません。それは、試験のカンニングと同等な不正行為とみなされます。参考として引用することはありえますが、その場合は引用元を明らかにしなくてはなりません。実習や演習などで、グループで協力してレポートを作成することを担当教員が認めている場合にはデータ等を共有することがあります。しかし、その場合も個人で提出する場合は、表現が人によって異なるはずですが、自分なりのオリジナルなレポートの作成を心がけましょう。